

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	次世代の循環器診療・研究・教育のために自己研鑽の日々!
別タイトル	Study and every day which is own tracing for cardiovascular medical examination and treatment, research and education of the next generation
作成者(著者)	藤井, 毅郎
公開者	東邦大学医学会
発行日	2019.12.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 66(4). p.234 236.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	教室(診療科)紹介
著者版フラグ	publisher
JaLCDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.2019 070
メタデータのURL	https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD56619434

教室(診療科)紹介(115)

次世代の循環器診療・研究・教育 のために自己研鑽の日々！

外科学講座心臓血管外科学分野

教授：渡邊善則（医学部長）
臨床教授：塩野則次（輸血部長）
准教授：藤井毅郎
講師：益原大志，片山雄三
医局長：原 真範

講座沿革

本学における心臓血管外科学診療は、1959年6月より始まり、2003年6月の医学部組織改正により、現在の外科学講座心臓血管外科となりました。初代教授 亀谷壽彦先生（慶応大学卒）、第二代教授 小松壽先生（東邦大学卒）、第三代教授 山崎史郎先生（慶応大学卒：胸部外科）、第四代教授 小山信彌先生（東邦大学卒）が引き継がれ、現在は第五代教授として渡邊善則先生（東邦大学卒：現東邦大学医学部長）が教室と、大動脈センター、小児医療センター心臓血管外科を統括し運営しています。2019年6月には心臓血管外科開設60周年を迎え、高度な循環器外科治療を迅速かつ円滑に地域へ提供するために日々邁進しています（Fig. 1）。

近況報告

臨床：日々の診療、研究、教育においては、現状維持は後退の始まりと考え、次世代循環器診療のために自己研鑽の日々を送っています。機能的改善を目的とした外科治療は、病態解析、治療選択、確実な技術の実行が強く求められますが、近年、問題となっている防衛医療、萎縮医療、保身医療を回避する適正医療を心がけ、高度な医療技術を提供しています。対象疾患は新生児から高齢者まで幅広く多岐にわたり、手術症例数も年間300症例に及び、藤井毅郎准教授を班長とする後天性心臓大血管班、益原大志講師

を班長とする血管内治療班、片山雄三講師を班長とする先天性心疾患班に分け、相互連携を取りつつ診療に取り組んでいます（Fig. 2）。東京都CCUネットワークに関連する急性冠症候群には常時緊急対応を行い、2010年には東京都急性大動脈スーパーネットワークの設立と同時に、これまでの実績を評価され重点拠点病院に指定されました。立ち上げられた大動脈センターは、後天性心臓大血管班、血管内治療班、救命救急センターの協力体制で対応し、急性大動脈症候群の対応数が年々増加しています。また、当院は東京都総合周産期母子医療センターであるため、先天性心疾患への対応も小児医療センター心臓血管外科部門が行っております。診療におけるDiversityは、高齢者における治療後の早期回復のためにリハビリテーション講座のスタッフと術前診察を行い、術後の回復目標を明確に設定し術後リハビリテーションを行っております。2018年4月に完成したハイブリッド手術室では、放射線科と協力し多くの大動脈血管内治療が行われ、2018年12月からは循環器内科、心臓血管外科、麻酔科、放射線科で構成されたハートチームによる経カテーテル的大動脈弁植え込み術を開始しています（Fig. 3）。現在は、来年から導入されるIMPELLA補助循環用ポンプカテーテルの準備を行っており、日々、高度先進医療の臨床導入に力を注いでおります。以下に、特に力を注いでいる治療を示します。

1. 内視鏡を用いた胸部大動脈瘤人工血管置換術
2. 新しい採取法（Non touch saphenous vein graft）による冠動脈バイパス術
3. Hybrid ORでの低侵襲大動脈治療
4. 小切開心臓弁治療
5. Hybrid ORでの経カテーテル的大動脈弁植え込み術
6. 心臓大血管手術における術前リハビリテーションを含めた周術期リハビリテーション
7. 新生児大動脈離断・縮窄複合に対する一期的大動脈再建・心内修復術
8. 左心低形成症候群に対するOpen-Square Techniqueを用いたNorwood手術
9. Down症候群を合併した完全型房室中隔欠損修復術

研究：以下に示す臨床研究に加え、基礎医学講座においても研究を行っています。

1. 内視鏡を用いた胸部大動脈治療の有効性
2. 冠動脈バイパス術におけるNon touch saphenous vein graftの血管壁構造解析
3. 術前フレイル評価による予後予測効果とリスク層別化
4. 新しい抗菌薬人工血管開発への試み
5. 偽腔開存型慢性大動脈解離におけるDICへのEndovas-



Fig. 1 医局員集合写真

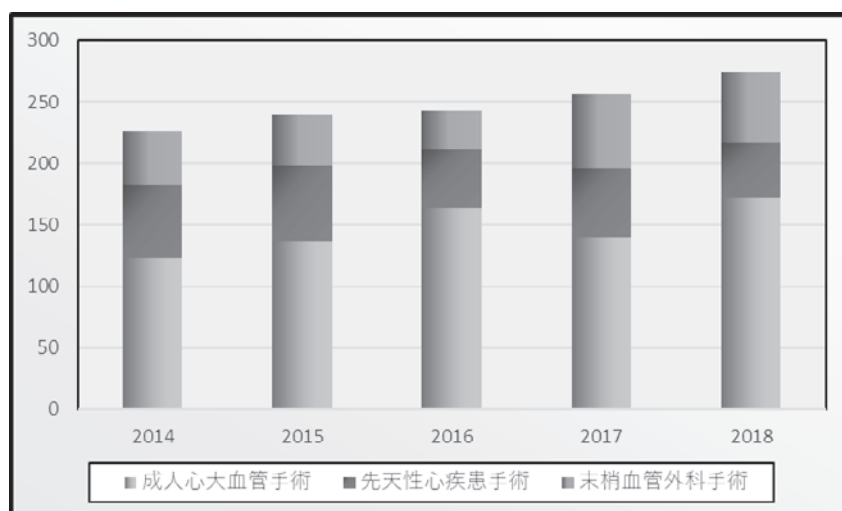


Fig. 2 過去5年間の手術件数

cular surgery の介入

6. 脳分離体外循環後患者の脳浮腫に対する瞳孔計を用いた予後予測

7. 複雑心疾患および再手術疾患に対する開心術における凝固機能の選択的是正



Fig. 3 Structure Heart disease を治療する循環器内科とのハートチーム

教育：学生実習では、手術見学で心臓、大動脈、末梢血管の解剖と術式を学び、病棟業務、外来、患者説明などに参加することで思考力をつけるトレーニングをしています。卒後教育では、以下に示す教育環境施設となっています。

1. 三学会構成心臓血管外科専門医認定修練基幹施設
2. 日本脈管学会認定研修指定施設
3. 大動脈ステントグラフト実施施設
4. 経カテーテル的大動脈弁植え込み術実施施設
5. IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設
6. 下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術実施施設
7. 浅大腿動脈ステントグラフト実施施設

8. 日本血管外科学会関東甲信越地方会事務局

最後に

近年の外科志望医師が激減する中、2013年より Academic surgeon の積極的育成を目指した大幅な構造改革を行い、毎年、志の高いレジデントが入局する環境になりました。東邦大学における次世代の循環器診療を担う若手育成が講座の大きな役割で、日々の診療、教育、研究のために日々邁進致します。

(藤井毅郎)

DOI : 10.14994/tohoigaku.2019-070